

## 編集後記 From Editor



「防災を美味しく、楽しく」をテーマに神崎川河川敷で開催された「ぼうさい朝市&昼市」(2009年11月、大阪市淀川区)

阪神・淡路大震災が起ってからもう15年。ガス供給の復旧に携わった当時のことは今でも鮮明に思い出せる。発生の翌日、被災地に入ったが、歩いて西宮に向かう途中、崩れ落ちた建物や高速道路、宙ぶりになったバスを目にし、言葉を失った。その日から今津の基地に泊まり込み、資材の配送や食料の確保などに無我夢中で取り組んだが、全国から駆けつけてきてくれた応援部隊に感激し、また数多くのボランティアが活躍する姿にも目をみはった。

大震災で、多くの方々が被った苦しみや悲しみを、決して風化させるべきではないと強く思う。しかし、それから時は過ぎ、人々の記憶もだんだんと薄れてゆく。その一方で、毎年のように全国各地で風水害や地震などの被害が発生する。時に人智を越えた規模や状況でやってくる災害に、私たち一人ひとりは何を教訓とし、どう対処すればいいのか。

そんなとき、「減災」という言葉に出会った。それは、日々の暮らしの中で、災害が起こった際の被害をできるだけ少なくするように努めること。例えば、地震に対しては、建物の耐震性を高め、家具の転倒を防ぐ処置などは大前提だ。だが、「減災」のもつ意味はさらに広がりをもつ。

「生活防災」を提唱する矢守克也氏は、そのよい例として「土手の花見」を挙げる。毎年春、土手に村中の人たちが集まってお花見をすること、土手は踏み固められ、水が出ても切れにくくなる。それだけでなく、皆で花見の準備をし、楽しんで時を過ごすことが、お互いを知り、気持ちを通わせ合うことにつながる。同時に、皆で地域の様子を見渡し、災害に対処する地域の智慧を伝承していく場にもなるだろう。

今号のレポートで紹介した、加古川グリーンシティ防災会でも、その活動のモットーは「楽しい減災」。だから、住民たちで取り組む活動は、やること自体が面白くて、無理なく続けられ、みんなが仲良しになれるものだ。同会会長の大西賞典氏は、「防災・減災は、自分の大切な人を守るための活動」だという。だからこそ、地域が安全で楽しいところであってほしいのだ。

本誌読者のみなさんにも、家族で、地域で、仕事場で、今一度「減災」の視点から日常を見直してみしてほしい。今回の特集が、そのひとつのきっかけとなればと切に願う。

——京 雅也

表紙写真 阪神・淡路大震災時の火災を生きのびたクスノキは今も地域の人々にとって心の支えとなる存在(御蔵南公園、神戸市長田区) / マンション内の公園で安心して元気に遊ぶ子どもたち(加古川グリーンシティ) / 「水都大阪2009」に合わせ、大阪・大川沿いの八軒家浜で2009年10月に開催された「ぼうさい朝市&昼市」  
裏表紙写真 神戸市長田区の三ツ星ベルト(株)では定期的に防災訓練を実施 / JR新長田駅近くの広場に建設された鉄人28号像は震災復興と地域活性化のシンボル / 早稲田商店会が主催する「早稲田地球感謝祭」の主要テーマのひとつは防災、多彩な取り組みが紹介された

### CEL 91号 特集 ■ 生活者にとっての減災

発行 ● 平成22年1月8日 頒価 1,000円(送料別途)

■ 発行 大阪ガス(株) エネルギー・文化研究所 (CEL)  
〒541-0046 大阪市中央区平野町4-1-2

■ 発行人 多木秀雄 Hideo Taki

■ 編集人 京 雅也 Masaya Kyo / 弘本由香里 Yukari Hiromoto

編集 ● 関西ビジネスインフォメーション(株) 内 CEL編集室  
〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-18  
住友中之島ビル7F TEL.06-4803-2307

印刷・製本 ● 日本写真印刷株式会社

RESEARCH INSTITUTE FOR CULTURE, ENERGY AND LIFE © 2010 OSAKA GAS CO.,LTD.

禁無断転載複写

※本誌掲載の寄稿文、インタビュー、レポートなどの内容は必ずしも小社の見解を表すものではありません。

本誌・バックナンバーのコンテンツや当研究所の活動内容はインターネットホームページ [http://www.osakagas.co.jp/company/efforts/cel/] でご覧いただけます。

本誌に関するお問い合わせ、ならびにご購読申し込みや送付先変更等のご連絡は CEL編集室 Tel.06-4803-2307 Fax.06-4803-2210 cel@kbicom.net まで